

美々川だより

Bibigawa News Letter Vol.7

平成21年12月発行
発行/北海道室蘭土木現業所

『美々川自然再生事業』の取り組みを紹介します。

美々川・ウトナイ湖流域は、かつての原野の姿を今に伝え湧水・蛇行河川・湿地・湖沼などの豊かな自然環境が残る数少ない地域のひとつです。美々川・ウトナイ湖において、地域社会と豊かな自然環境の共生に向けて、自然再生の取り組みを行っています。その内容を『美々川ニュースレター』としてお知らせします。

【課題1】

減少する美々川の湧水



美々川左支川源流部

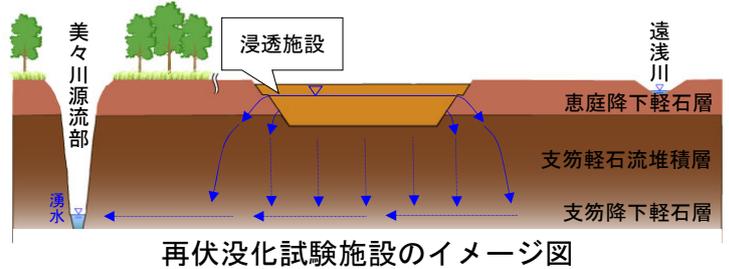
平成5年(1993)と平成17年(2005)を比較すると、左支川源流部の湧水量は平成5年の約60%に減少していることがわかりました。



【取り組み1】

遠浅川の水を浸透させ美々川の湧水を回復させる試みを行っています。

- ・かつての遠浅川は駒里地区で伏没し、伏没した河川水は美々川の湧水となって左支川源流部から湧き出ていました。
- ・遠浅川の水を試験施設を用いて地下に浸み込ませ、美々川左支川源流部の湧水量と美々川の流量を回復させる試みを行っています。



【課題2】

クサヨシで閉塞した美々川上流部



開放された水面を維持

上流域の河道はクサヨシなどの草本群落に覆われ、開放水面は昭和28年(1953)の約37%に減少しました。



クサヨシで覆われた河道

【取り組み2】

河道一面に繁茂したクサヨシを除去し流れのある美々川を回復させる試みを行っています。

- ・試験的にクサヨシを除去することによりかつてのような広い川幅の確保を図るとともに、在来水生植物や魚類などの生育・生息環境の回復を進める取り組みを行っています。



クサヨシを除去し開放された水面

平成18年より除去試験を開始し、平成19年より在来水生植物の回復状況についてモニタリング調査を実施しています。

【課題3】

ハンノキ林の拡大と湿性草原の減少



乾燥化が進むウトナイ湖北西岸

- ・ウトナイ湖沿岸域では、乾燥化が進行しハンノキ林の拡大と湿性草原の減少が進んでいます。
- ・ウトナイ湖周辺の湿地面積は、約4,900ha(昭和28年)から約670ha(平成10年)へ減少しています。
- ・現在、専門家を交え湖内・周辺植性等、各種環境調査を行っています。

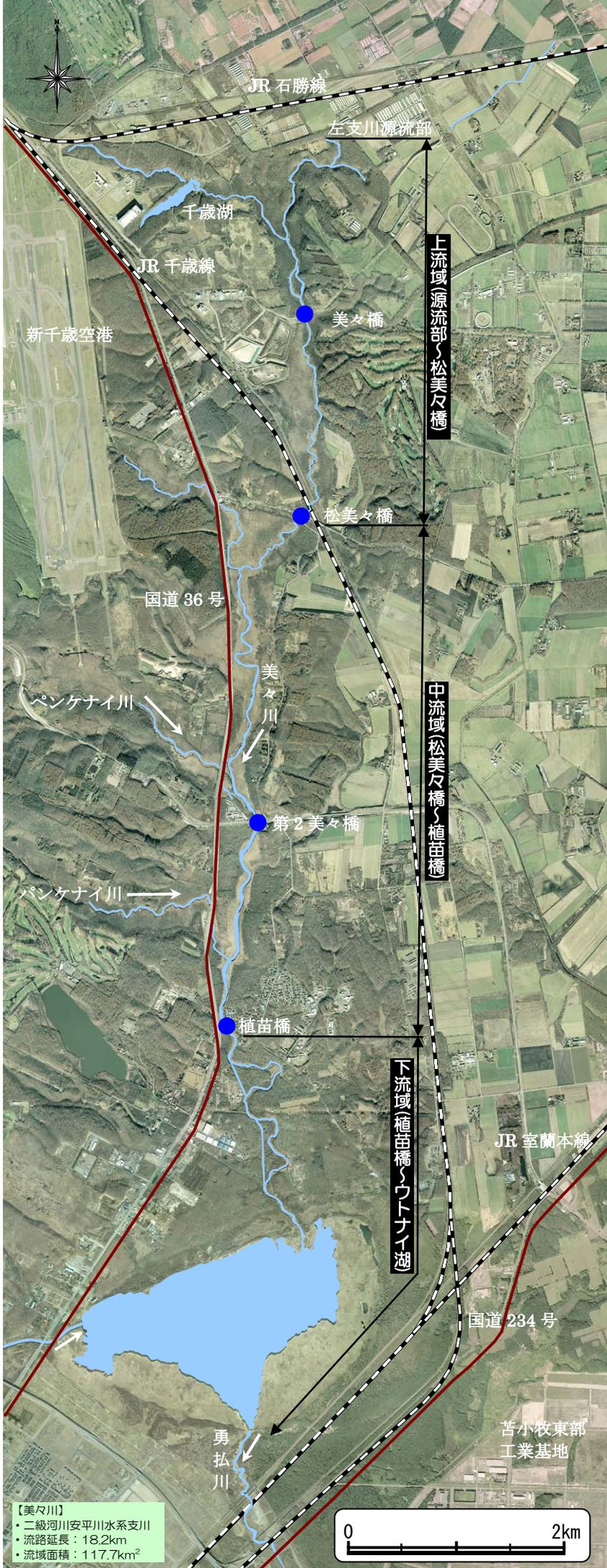
【取り組み3】



ハンノキの生育環境調査



クサヨシ除去作業



【美々川】
 ・二級河川安平川水系支川
 ・流路延長：18.2km
 ・流域面積：117.7km²

【美々川左支川源流部, 美々川上流部】

- ・源流部は千歳湖周辺の湧水群と左支川源流部の湧水群からなる。
- ・周囲はミズナラ-コナラ群落やカツラなどの溪畔樹林が見られる。
- ・清澄な流れの中にはバイカモなどの流水性植物群落が見られる。



豊かな樹林に囲まれた上流域。林床にはミズバショウ群落がみられる。

【湿原を蛇行しながら流れる美々川中流部】

- ・ヨシ-イワノガリヤス群落やスゲ群落などが見られる。
- ・大小さまざまな蛇行を繰り返し、緩やかに流れる湿原景観を形成している。
- ・流れの中にエゾミクリ、コウホネなどの水生植物が生息している。



広大な湿原内を蛇行して緩やかに流れる中流域。イバラトミヨやジュズカケハゼなどが生息している。

【ウトナイ湖】

- ・ラムサール条約登録湿地(平成3年)
- ・面積：2.4km² 周囲：17km 平均水深：0.6m(最大1.5m)



【地域活動の取り組み】



駒里小学校体験学習



植苗中学校環境学習



植苗地区住民懇談会



ニュースレター発行

【今後の活動予定】

美々川自然再生アクションプログラム検討会を開催し、再生に向けて具体的な技術的手法や普及・啓蒙活動を進めていきます。